

# エンターテインメントへの恩返し 信頼で築いていくデザインの行先

## Artist

青木 風人 AOKI Futo

筑波大学芸術専門学群  
構成専攻 2 年

## Writer

角田 真季 TSUNODA Maki

筑波大学芸術専門学群  
芸術学専攻 2 年

「小さい頃から沢山の恩恵をもらった、エンターテインメントの世界へ恩返しをしたい」

インタビュー中にそう話して下さった青木風人さんは、現在筑波大学芸術専門学群構成専攻に在籍し、主に広告デザインを中心としたビジュアルデザインを学んでいる。芸術の立場からエンターテインメントへどう貢献をしたいのか、またそのように考えるようになったきっかけは何だったのか、探っていく。

## 相手と一緒に作りあげること

——現在、ビジュアルデザインを学んでいるのはなぜですか？

青木 元々絵を描くのが好きで、愛鳥週間ポスターによく応募していたり、中学生まですっと自由研究でトンボをテーマにしていたので、鳥やトンボを描いていました。高校生の時、将来は水彩画や日本画をやりたいと思っていたけれど、絵

描きとして食べていけるか不安だったり、自分が絵を描く理由というのが特に無かったんです。そんな時、美術の先生に「青木くんは視覚情報を追うのがうまいから、デザインの方が向いているんじゃないか」と言われて。当時、立体のデザインより平面の方が経験があったので、ビジュアルデザインを学ぼうと決めました。

——TSC( つくばスペースクラスタ ) のロゴマークデザインやアストロカフェポスターは、とても視覚的に美しいデザインですね。これらの作品はどのようなイメージで作られたのですか？

青木 TSC という団体は、宇宙に関する話題で人々と交流する機会を普及しようという学生団体です。TSC はリーダーを中心に動いていくのではなく、個人個人が積極的に動くという方針です。また宇宙という大きなテーマのもとで、いろいろな専門分野の人々が集まっているという特徴もあります。そこで、どの惑星も自転し、各惑星が様々な特徴を持つ太陽系の各惑星の軌道をイメージしてデザインしました。ポスターには、アストロカフェテーマの「宇宙ブームの原点」を「小惑

星探査機はやぶさ」とし、はやぶさがいつまでも人々の心の中で輝いているように、という意味を込めて、はやぶさが輝く宇宙を映し出しているデザインにしました。

——なるほど、ただ見た目が惹かれるだけでなく、中身も沢山つまっているデザインなんですね。制作する段階で、重視した点などありますか？

青木 制作するにあたり、まず TSC の皆さんにアンケートをとりました。団体の長所や短所、団体を形にたとえると…など。その結果をまとめ、アイデアスケッチを思いつく限り沢山描き出し、そこから何種類かの完成イメージを制作して、TSC の皆さんにどれが良いか決めて貰いました。これは、グラフィックデザイナーの佐藤可士和さんのブランディング（ここでは、団体の宣伝のために共通イメージを創り出すこと）の方法を参考にしています。佐藤さんは、「デザインはビジョンを形にします。（中略）みなさんと話し合いをして、初めてそのビジョンを形にする仕事に入ります」（佐藤可士和『佐藤可士和のクリエイティブシンキング』日本経済新聞出版社、2010 年）と言っています。この相手側とのコミュニケーションから構築していくデザインの考えに、僕はとても興味を持っています。デザイナーが単独で決めたデザインだと、実際に用いる方々の愛着が僅か、或いは短命だと思うんです。今回はアンケートやディスカッションを何度も行い、団体側にもブランディングに大きく関わっていただき



《筑誕》2012 年 ポスター



《NHK ラジブロ〜ラジオをプロデュース〜》2012 年 ポスター

ました。また、アンケートで団体について抱いているイメージが人によって違っていたり、こんな一面もあるよという意見もあったり、TSC 側も団体としての再確認ができたそうです。このブランディングを通して、TSC の方々も、一緒に達成感を味わうことが出来たと言っていました。

——クライアントとのディスカッションをもとに制作すれば、お互いに満足したデザインを創り出しやすくなりますね。このコミュニケーションを重視した方法で、他に何か得たものはありましたか？

青木 自分はこういう人で、こういう作品を作っていますよ、と相手にまず自分についてを晒せば、ある程度は自分を分かってもらえるし、相手も安心して気が楽になると思います。その上でコミュニケーションを積み重ねて制作していけば、やはり互いに大きな信頼が置けると思いますね。それは仕事を頂けるかという話にも関わってくるだろうし。このような

信頼感を重視した人間関係を築けるんだと再認識できました。

## エンターテインメントへ 貢献していくこと

——TSC 関連のブランディングなど、ビジュアルデザインの中でも広告デザインを中心に制作していますが、何かきっかけなどあったのでしょうか。

青木 僕は小さいころからテレビなどの娯楽がとても好きでした。当時流行っていた番組だけでなく、80 年代など昔の音楽も好きで。ドラマやバラエティなど、ジャンルを問わず、どんな番組も好き好んで視聴していました。高校受験を控えたころには、ラジオを聴くようになって、いつも聴いていたある番組からは、受験勉強の応援メッセージや、勉強に刺激を与えてくれる言葉をたくさんもらいました。ラジオの励ましをもらいながら、受験勉強を続けていて、結果希望する高校に受かった時、その番組へお礼のメールを送ったら、ラジオでそれが読まれたんですね。このやりとりにとっても感動しました。大学受験の時は、今度はあるグループの音楽にいつも励まされてきて。僕はエンターテインメントのパワーを受け取って、人生を乗り越えてるんだなあ実感したんです。そこで、小さい頃から沢山の恩恵をもらった、このエンターテインメントの世界へ恩返しをしたいと思いました。だったら広告デザインじゃなくて、芸能人のマネージャーなどを目指せばいいと言われるかもしれませんが、将来は自分の力を活用した、自分にしかできないことを仕事にしたいんです。僕は絵やデザインすることが好きで、そんな中で芸能系にかかわるならば、広告ポスターなどの広告デザインがやりたいことに合致すると思ったのです。そして世の中をはじめ、エンターテインメントへ貢献していきたい。

——「エンターテインメントへの恩返し」という目標は、とても壮大でいろいろなアプローチの方法がありそうですね。その中でも、広告デザインから、どのようにエンターテインメントへ貢献していきたい。

——「エンターテインメントへの恩返し」という目標は、とても壮大でいろいろなアプローチの方法がありそうですね。その中でも、広告デザインから、どのようにエンターテインメントへ貢献していきたい。

と考えていますか？

青木 僕は芸能人を起用した広告をいずれ制作したいと考えています。ビールやコーラの吹き出す泡をうまく演出するといった、芸能人が起用されていない広告でも、ヒットするものは確かに存在します。でも、芸能人を起用した広告では、なんでこの人を使ってこんなデザインや宣伝をしているの？という根底部分がしっかりしていないものはほとんどありません。デザインと人とのイメージが合致した、すばらしい広告は、世間で相応に評価されるだろうし、さらに、その出演した芸能人のステップアップを支援していると思います。この、芸能人への広告という舞台提供を、僕は演出したいと考えています。先ほどの信頼感を重視するブランディングとも関連するのですが、しっかりしたデザインへ向かうには、クライアントとタレントと自分の信頼関係を結ぶことが大切だと思うのです。また、ある程度の信用や経験がないと、エンターテインメントへ関われないと考えたので、コミュニケーションを根底においたデザイン手法を習得しようとしています。

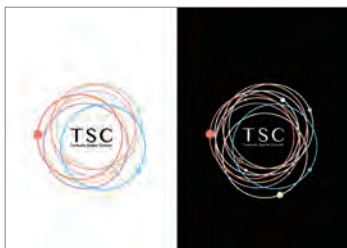
——未来のスターの舞台演出として、裏方で活躍なさる日が来るのが楽しみです。将来に向けて、今活動はどんなことをしていますか？

青木 時代に恵まれているおかげで、近年では Facebook などでも芸能人やアーティストとつながりを持つことができるんですね。とにかく積極的に動こう！と思って、SNS ツールを活用して交流を広げています。他には、TSC ブランディング以後、NHK のラジオ番組や、筑誕という THK( 筑波放送協会 ) 主催イベントのポスターのデザインをさせていただきまし

た。——コミュニケーションを基盤として、信頼を築いていくというデザインの手法。そして、エンターテインメントの世界へ貢献していきたいという姿勢は、とても熱心でまっすぐ未来を目指していました。青木さんの今後の活躍にも期待しています。本日はありがとうございました。



《ASTRO CAFE》2012 年 ポスター



《TSC ロゴマーク》2012 年